

## 鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き 生産者と消費者編

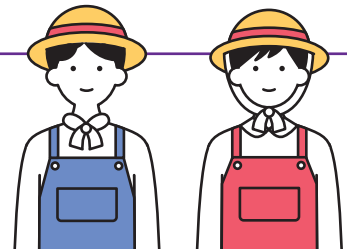


2025年3月31日に「鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き」が出版されました。ここでは、ダイジェスト版として「生産者と消費者」についての内容を紹介します。

### 生産者と消費者編 もくじ

- 3-1. アニマルウェルフェアの畜産物の需要と供給  
：生産者と消費者の視点から
- 3-2. 生産者の視点から ● ピックアップ①
- 3-3. 消費者の視点から ● ピックアップ②
- 3-4. 生産者と消費者の小括

### ピックアップ1



#### 3-2. 生産者の視点から

ここでは、採卵鶏および養豚生産におけるアニマルウェルフェア配慮施設への移行に関して、生産者の方々の「気持ち」を社会的な手法で調査を行い、ご自身が思う生産理念、アニマルウェルフェアを知った時期、どのようなことに困難を感じられているのかなどを示しています。

ご自身にとってアニマルウェルフェアに配慮した生産とはなんですか？

「鶏に優しい飼い方、鶏の気持ちになって考えてみて、どういう状況だったら鶏が気持ちがいいのかなというのを一番に考えた飼い方です。」

「基本的に十分な水、栄養を与えとか、けがや病気になりにくい、動物の不安や恐怖が少ないとか、そこら辺をしっかりとちゃんとやれているってことが、まず一番大事で配慮した生産です。」

「動物が一生どうやって過ごすかってことで、動物は言葉を発することができないけども、“ただ一生、短い間でもここで過ごせてよかったな”とそういうことが聞こえるように飼うのがアニマルウェルフェアと違うのかな？」



「5つの自由が保障されていること。」

「私たちは、生命産業を担ってると思ってますけれども、その中で、できるだけ、家畜の生活環境を考えた飼養方法です。」

「産業動物なんで、お肉になったりだとか。人が管理する動物なんだけど、そういう動物に対しても、生きている間、お肉になるまでの間を快適に過ごしてもらう飼い方です。」

「豚が豚らしく、しっかりと餌も水もあって、快適な環境で飼われている、そういうことに配慮したような農場で生産することです。」

「家畜を健康に、そして大事に飼っていることです。」



産業動物におけるアニマルウェルフェアですが、愛玩動物（ペット）などと違い、畜産物を頂くために、その命を見届ける場面に直面します。しかし、それまでの間、家畜の生産環境の快適性に配慮して生産していることがアニマルウェルフェアであると考えているようです。

# 鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き 生産者と消費者編

## ピックアップ 2



### 3-3. 消費者の視点から

消費者については大規模なアンケート調査を行い、統計的手法を用いた分析を行いました。結果として、消費者における畜種ごとの飼養施設の認知度を数値で示すと共に、何名の消費者がアニマルウェルフェア対応食品を購入するのか、その推定人数およびその方々の特徴も合わせて示しています。また、アニマルウェルフェア対応食品を広めていく戦略にも触れています。

#### アニマルウェルフェアに配慮した飼養施設に関する認知度

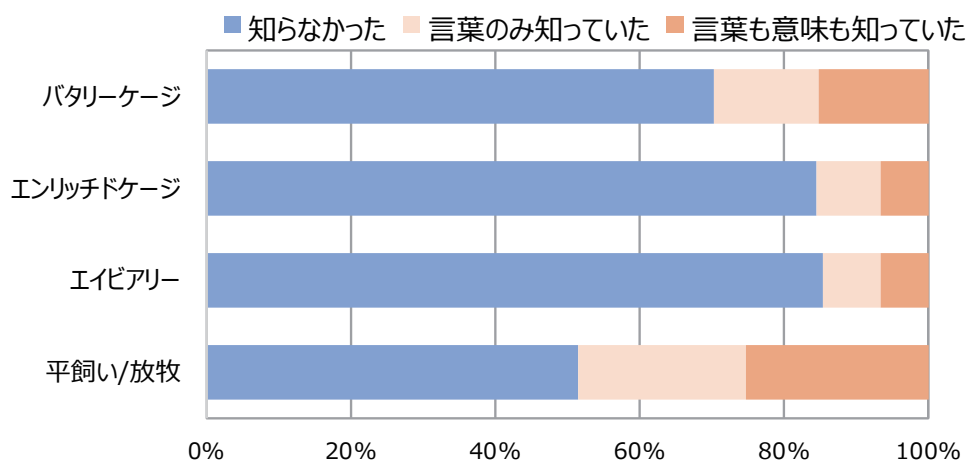


図 3-3-1. 採卵鶏の各生産施設の認知度

消費者のうち約 18% が「アニマルウェルフェア」という言葉を知っていました。この数字は決して高くはありませんが、アニマルウェルフェアの概念が徐々に浸透しつつあることを示しています。特に採卵鶏において「平飼い」や「放牧」といった具体的な飼養方法に対する認知度が高く、これらは消費者にアピールする際の重要な要素となります（図 3-3-1）

「鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き」は、みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち令和4～6年度農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）「鶏及び豚の快適性により配慮した飼養管理技術の開発」（JPJ011279）」の支援を受けて実施した研究成果を基に作成したものです。



WEB 版「鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き」

<https://doi.org/10.15087/0002000272>

上記の QR コードおよび URL からアクセスして下さい。